

## 文化・芸術

### 「シェークスピア『テンペスト』から」

1975年、リトグラフ、紙  
42・0cm×33・0cm

マルク・シャガール (1887～1985年)

本作は、シャガールがシェークスピア作の戯曲「テンペスト」(1611年)の挿絵として制作した版画の中の一点になります。

戯曲の主人公は、弟らの策略によりミラノ公の地位を追われたプロスペローです。幼い娘とともに孤島に流れ着いた主人公が島の妖精を従え、弟とナポリ王らの乗った船を自分のいる孤島に難破させます。

抱き合っているのは、成長した主人公の娘ミランダとナポリ王の息子フアーディナンドです。孤島でプロスペローから与えられた試練を克服する二人が、お互いの愛を確かめる場面となっています。抱き合う恋人は、シャガールがよく描いたモチーフの一つでもあります。色彩の少ない画面ながら、愛に満ちあふれたあたたかな空気が伝わってきます。

11月7日まで桐生市市民文化会館で移動大川美術館展を開催しています。本作をはじめ、シャガールの版画作品を展示しておりますのでぜひご覧ください。(池田)

移動大川美術館展から

名画の扉

